

## 白山麓におけるニホンジカのライトセンサスの試み (第2報)

八 神 徳 彦\*<sup>1</sup>・稲 田 奈 緒\*<sup>1</sup>・宮 崎 顕 治\*<sup>1</sup>・小 川 弘 司\*<sup>2</sup>  
北 市 仁\*<sup>1</sup>・野 上 達 也\*<sup>3</sup>・宗 田 典 大\*<sup>4</sup>  
村 中 克 弘\*<sup>1</sup>・川 畠 敦 仁\*<sup>1</sup>・有 本 紀 子\*<sup>1</sup>

\*<sup>1</sup>石川県白山自然保護センター, \*<sup>2</sup>石川県立大学

, \*<sup>3</sup>石川県生活環境部自然環境課, \*<sup>4</sup>石川県中能登農林総合事務所

### A try of spotlight census of Sika deer (*Cervus nippon*) at the foot of Mt. Hakusan (2)

Tokuhiko YAGAMI\*<sup>1</sup>, Nao INADA\*<sup>1</sup>, Kenji MIYAZAKI\*<sup>1</sup>, Hiroshi OGAWA\*<sup>2</sup>,  
Hitoshi KITAICHI\*<sup>1</sup>, Tatsuya NOGAMI\*<sup>1</sup>, Norihiro MUNETA\*<sup>4</sup>,  
Katsuhiko MURANAKA\*<sup>1</sup>, Atsuhito KAWABATA\*<sup>1</sup>, Noriko ARIMOTO\*<sup>1</sup>

\*<sup>1</sup>Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa, \*<sup>2</sup>Ishikawa Prefectural University,

\*<sup>3</sup>Nature and Environment Division, Living and Environment Department, Ishikawa,

\*<sup>4</sup>Nakanoto Agriculture and Forestry General Office, Ishikawa

#### はじめに

石川県においてニホンジカ (*Cervus nippon*) (以下、シカ) が高密度化した場合に、危惧される問題の一つに、白山の高山植物への影響が挙げられる。シカが低地に高密度に生息する地域では、高山帯に侵入して高山植物に甚大な被害を及ぼした事例が報告されている (中部森林管理局, 2007)。石川県では、生息密度が低いと考えられている現状から白山麓のニホンジカ生息状況を把握するため2018年からライトセンサスを実施しており (近藤ほか, 2019), 今回は2019年から2021年までの3年間に行った調査結果について報告する。

#### 方 法

調査は2019年, 2020年, 2021年の11月中旬から下旬に、石川県白山市の林道を中心に、5本の調査ルート、標高300-1,070m, 距離6-17kmで行った (表1, 図1)。調査ルートの植生はブナ, ミズナラなどの落葉広葉樹林を中心として、一部にスギ人工林が点在する。調査時間は日没後のおおむね17時半から20

時半の間として、運転手1人, 観察者2人ないし3人で行った。車はハイビームをつけて時速10km程度で走行し、観察者はスポットライト (Q-Beam 400,000 candlepower BIG MAX, BRINKMANN社製) で左右をそれぞれ照らして動物を探した。動物を発

表1 調査概要

調査地	標高	距離(km)	日付	時間	調査者
			2019		道路通行止のため実施せず
西山	660-1070m	9	2020/11/19	17:37-18:06	八神, 小川, 宮崎
			2021/11/19	17:31-18:30	八神, 宮崎, 稲田
赤谷	470-830	10	2019/11/22	18:45-19:48	八神, 宗田, 稲田
			2020/11/19	18:37-19:23	八神, 小川, 宮崎
			2021/11/19	19:03-20:44	八神, 宮崎, 稲田
			2019/11/18	17:45-18:39	八神, 北市, 宗田, 稲田
市ノ瀬	530-830	10	2020/11/17	17:48-18:34	八神, 宮崎, 稲田
			2021/11/16	17:37-18:20	八神, 宮崎, 有本
			2019/11/29	17:42-19:05	八神, 小川, 北市, 野上
瀬波	300-490	6	2020/11/26	17:38-18:28	八神, 北市, 小川
			2021/11/29	17:39-18:38	八神, 川畠, 村中, 稲田
			2019/11/26	17:22-19:29	八神, 小川, 宗田, 野上
高倉山	310-990	17	2020/11/24	17:20-18:52	八神, 北市, 稲田
			2021		通行止のため実施せず

調査者の先頭は運転手

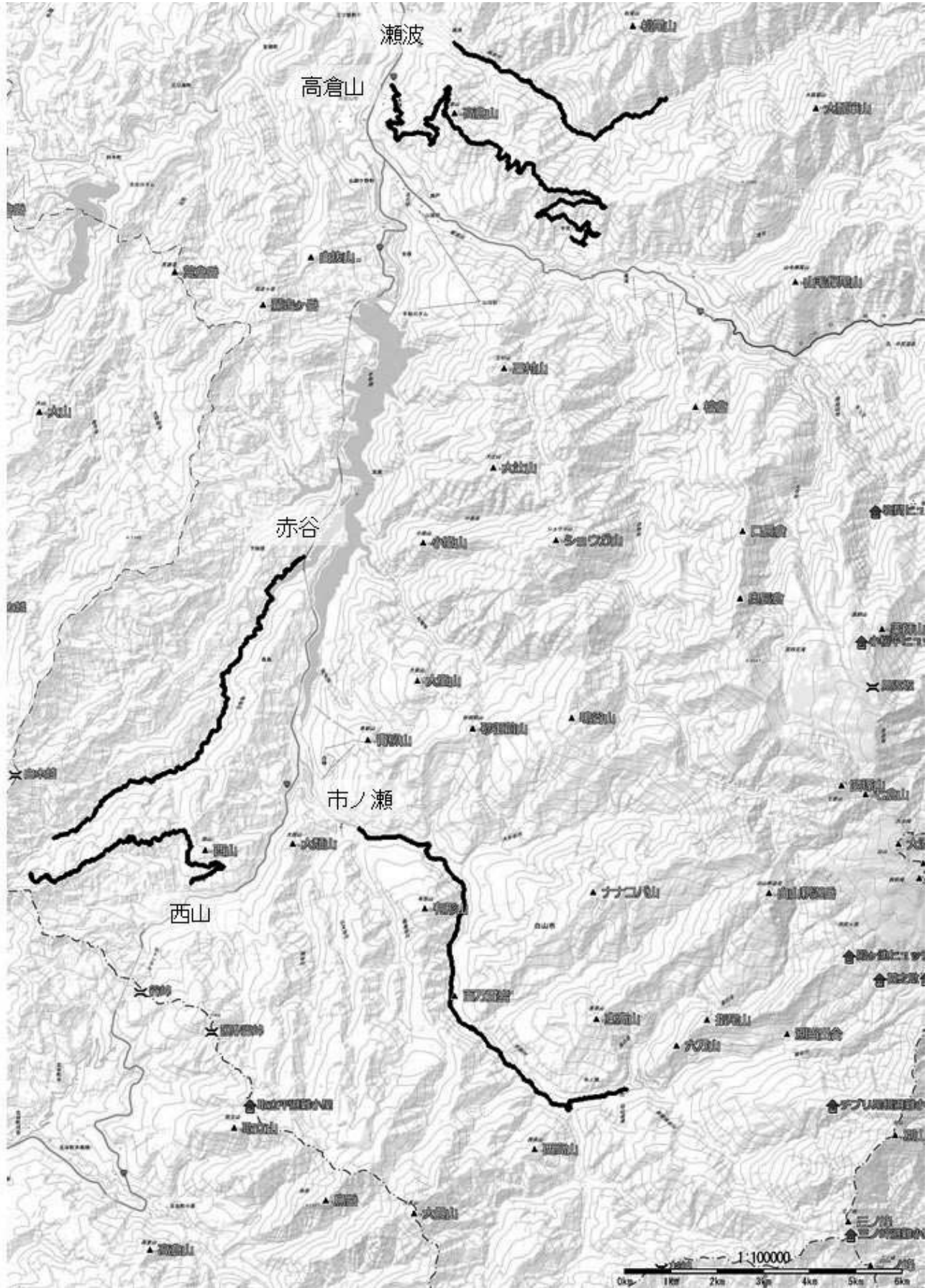


図1 調査地の全体図

見した場合は停車し、必要に応じて双眼鏡を用いて動物の種類を確認し、位置情報とともに記録した。地図は国土地理院の電子地形図25000を加筆改変して使用した。

### 結果

2019年はすべての調査ルートでシカは確認されなかった。2020年は、瀬波川でオスシカ1頭を確認した。標高363mの瀬波川右岸の河原付近で見られ、角は三尖であった。シカまでの距離は約200mで双眼鏡で姿が確認できた。2021年は、赤谷でシカと思われる動物が4頭見られたが、反射する目だけで姿ははっきりとは確認できなかった。目の光がオレンジ色で、体毛が茶色っぽく、首を上下に大きく動かして移動している特徴からシカの可能性が高い。2頭ずつが300m程度離れて山腹山林内を移動していた。

シカ以外では、2019年にはコウモリ類、タヌキ、ツキノワグマ、種不明の中型哺乳類、2020年には、テン、カモシカ、タヌキ、種不明の中型哺乳類、2021年にはイノシシ、ツキノワグマ、カモシカ、キツネ、種不明の中型哺乳類が目撃された。

### 考察

2018年から2021年のライトセンサスでは、シカと確実に確認できたのは2020年の瀬波川の1頭のみであり、シカと思われるのは2021年の赤谷で4頭で

あった。目撃の多くは200-300mと遠く離れており、双眼鏡では姿をはっきりと確認することは困難だったため、今後プロミナーなど高倍率で観察することが必要である。

白山周辺地域では自動撮影カメラによる調査でシカの個体数が増加傾向にあり（北市ほか、2021）、また、糞塊調査でも生息密度が増加傾向にあり（石川県、2022）、今回のライトセンサスでも単独から複数頭への目撃数の増加の可能性がみられた。今後シカの密度を低く抑えるよう個体群を管理していくことが必要で、そのための基礎資料とするため、いろいろな手段で生息状況のモニタリングを継続していくことが重要である。

### 引用文献

石川県（2022）第3期石川県ニホンジカ管理計画. 石川県、金沢  
 中部森林管理局（2007）平成18年度南アルプスの保護林におけるシカ被害調査報告書。  
 北市 仁・近藤 崇・江崎功二郎・有本 勲・宗田典大・内藤恭子・稲田奈緒・小川弘司・小谷直樹・野崎亮次（2021）白山周辺地域における自動撮影カメラによるニホンジカ生息状況調査. 石川県白山自然保護センター研究報告. 47：39-44.  
 近藤 崇・北市 仁・八神徳彦・小川弘司・村中克弘・亀田尚志・稲田奈緒（2019）白山麓におけるニホンジカのライトセンサスの試み. 石川県白山自然保護センター研究報告. 45：11-14.

表2 ライトセンサスで目撃された動物

調査地	目撃種			
	2018*	2019	2020	2021
西山	中型不明1	実施せず	なし	なし
赤谷	カモシカ2, キツネ1, テン1	コウモリ類1	テン1	ニホンジカ? 4, イノシシ1, ツキノワグマ1, カモシカ1
市ノ瀬	アナグマ1, モモンガ1	タヌキ1, ツキノワグマ1, 中型不明1	中型不明1	なし
瀬波	カモシカ2, テン1, 中型不明1	なし	ニホンジカ1, カモシカ2, テン1, 中型不明3	ツキノワグマ2, キツネ1, カモシカ1, 中型不明2
高倉山	ノウサギ1, タヌキ1, カモシカ1, 中型不明1	なし	テン1, タヌキ1	実施せず

\*近藤ほか（2019）より引用  
 中型不明はタヌキ、アナグマ、キツネと推測